

日独の専門家が AI 時代・社会の不確実性の中で「教育の未来」を議論 ～3月19日、「わからない」に向き合う多様な教育を考える国際シンポジウム～

国際交流基金・ベルリン日独センター共催

国際シンポジウム

変動する社会における
教育の未来
— 日・独の視点 —



ドイツ文化会館OAGホール（東京・赤坂）
※オンライン同時配信あり、同時通訳付き

3.19 木 18:00~20:30

参加無料

国際交流基金（JF）は、ドイツのベルリン日独センター（JDZB）との共催で国際シンポジウム「変動する社会における教育の未来 —日・独の視点—」を2026年3月19日（木）に東京・赤坂のドイツ文化会館 OAG ホールにおいて開催します。本シンポジウムはオンラインでも同時配信します。

AIをはじめとする技術革新、社会格差の拡大、地政学的な不安の高まりなど、世界は急速に変化しています。こうした状況の中で、教育には何ができるのでしょうか。子どもたちが多様な価値観のなかで生きていく力を育むために、学校や地域社会はどのような役割を果たすべきなのでしょうか。

本シンポジウムでは、急速に変化する社会の中で教育が果たす役割について、日本とドイツ双方の視点から考えます。第1部では、日独それぞれの教育制度の現状を俯瞰し、教育政策や学校教育が直面する課題について共有します。続くセッションでは、教育現場における具体的な実践に焦点を当て、日本からは「わからない」に向き合いながら対話を重ねることを重視した教育やアートを通じた対話的な学びの実践が紹介されます。日独両国の研究者や教育実践者が登壇し、教育の現状と課題、そして未来の可能性について多角的に議論します。

記

シンポジウム概要

事業名称：国際交流基金（JF）・ベルリン日独センター（JDZB）共催シンポジウム
「変動する社会における教育の未来 —日・独の視点—」

主催・共催：独立行政法人国際交流基金（JF）、ベルリン日独センター（JDZB）

協力：オーアゲー・ドイツ東洋文化研究協会、ゲーテ・インスティテュート東京

開催日程：2026年3月19日（木）18:00～20:30（日本時間）

会場：ドイツ文化会館 OAG ホール（東京都港区赤坂 7-5-56 青山一丁目駅）

形式：ハイブリッド型（対面・オンライン配信）

言語：日本語およびドイツ語（同時通訳あり）

参加費：無料（要事前申込）

参加申込：会場参加：<https://forms.office.com/r/AGCr4aCPej>

オンライン：<https://jdz.de/ja/events/71506>

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：福島、熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

プログラム

開会挨拶

ユリア・ミュンヒ (Dr. Julia Münch、ベルリン日独センター事務総長)

佐藤百合 (国際交流基金参与)

【第1部】 基調講演

「ドイツの教育の現状：全国教育モニタリングの視点から」(仮)

ヤニス・ブルクハルト (Dr. Jannis Burkhard、ライプニッツ教育研究情報研究所研究員)

「日本の学校教育の目的とその実現に向けた取組 ～『わからない』と言える社会づくりを目指して」

白水 始 (国立教育政策研究所初等中等教育研究部長 兼 データサイエンスセンター副センター長)

司会：フェーベ＝ステラー・ホルドグリューン (Dr. Phoebe Stella Holdgrün、ベルリン日独センタープロジェクトマネジメント・ディレクター)

【第2部】 教育現場における取り組み 1

日本の事例 — 「対話」から学び、理解を深める協調学習

「話し合いながらアートをみると、何が起ころか」

平野 智紀 (公立ほこだて未来大学メタ学習センター／社会連携センター准教授)

「正解を急いでしまう私たち ～『わからない』を探しに行こう」

畑 文子 (教育環境デザイン研究所 (CoREF) 研究員、私立武南高等学校教諭)

司会：原 秀樹 (国際交流基金国際対話部長)

【第3部】 教育現場における取り組み 2

ドイツの事例 — 移民社会における学校教育と教育方法／授業における新技術の活用

「一人ひとりの視点から学びの機会をひらく —ベルリンのインクルーシブな総合制学校の実践から」(仮)

シルヴィオ・ヴェンデ (Silvio Wende、ベルリン・フリーデナウ総合制学校社会科主幹教諭)

「事実・フェイクニュース・AI の“幻覚”のあいだで —学校教育における AI の学習支援的活用」(仮)

ヘンドリック・ハヴァーカンプ (Hendrik Haverkamp、ギュータースロー・プロテスタント・ギムナジウム教諭およびデジタル化コーディネーター、時代に即した試験文化研究所共同創設者、AI バーチャルコンピテンスセンター共同代表、FelloFish 共同創設者)

司会：原 秀樹 (国際交流基金国際対話部長)

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課 (広報担当：福島、熊倉)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp



ベルリン日独センター（Japanisch-Deutschen Zentrum Berlin）について

<https://jdzb.de/ja>

ベルリン日独センター（JDZB）は、経済、科学、学術、文化、社会、政治の各分野における日独間および国際的な交流を支援し深めることを目的として設立された、ドイツ民法に基づく公益財団です。1985年の設立以来、日本とドイツの政治・経済・社会の発展に貢献しています。設立当初から日本及びドイツの外務省に加えベルリン州政府の支援を受けており、学術会議や文化事業、人的交流事業、日本語講座の実施、図書館の運営など、幅広い事業を展開しています。

国際交流基金（JF）とは2006年3月に連携協定を締結して以来、学術会議の共同開催をはじめとする多様な事業協力を進めています。2017年度以降は、世界や社会の動向を踏まえた日独共通の課題をテーマに国際シンポジウムを定期的に共同開催し、専門家による議論を通じて知的交流の促進と日独関係の深化に取り組んでいます。

国際交流基金について

国際交流基金は「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ。」をミッションに、「文化芸術交流」「日本語教育」「日本研究・国際対話」を推進する独立行政法人です。国際対話事業として、国を超えた共通テーマや課題についての共同作業から市民・青少年による相互理解交流まで、さまざまなレベルでの対話の促進と人材育成、人的ネットワークの形成に資する交流を展開しています。

国際交流基金が展開する主な国際対話事業

■ 研究支援・フェローシップ

東南アジアパートナーシップ・プログラム（JFSEAP）、インド太平洋パートナーシップ・プログラム（JFIPP）

■ 知見・知恵の共有・共創

文化人短期招へい、文芸対話プロジェクト「YOMU」、ウクライナ詩人 オスタップ・スリヴィンスキー氏招へい

■ 相互理解

日中21世紀交流事業、日米草の根交流コーディネーター派遣（JOI）、ASEANユースフォーラム（TASK）日ASEAN中高教員交流

各事業の詳細は、JF公式サイト 国際対話部ページをご覧ください。

<https://www.jpj.go.jp/j/project/intel/exchange/index.html>

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 ブランド推進部 広報課（広報担当：福島、熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp